

アカショウビンの越冬地を探る調査

代表申請者

星野由美子（島根県立三瓶自然館）

目的：

亜種アカショウビンの越冬地、及び、渡りルートの解明。

調査の背景：

アカショウビンは、溪流のある森林で繁殖する夏鳥で、その美しい声と姿は、多くのバードウォッチャーを魅了するあこがれの鳥の一つと言える。

姿が見られる、撮影ができるという情報が流れると、多くのバードウォッチャーやアマチュアカメラマンが殺到する人気のある鳥である。

しかし、その生息数は多くなく、環境省のレッドリストには入っていないものの、各県レベルでは、多くの県でレッドデータブックに絶滅危惧 類～準絶滅危惧種に名前を連ねている。

日本に棲息するアカショウビンは、2 亜種あり、亜種リュウキュウアカショウビン(南西諸島に棲息)については、少しずつ調査も進んでいるが、主に本州で繁殖する亜種アカショウビンについては、東南アジアの一部地域での越冬が知られているものの具体的な越冬地や渡りルートについてはほとんど解明されていない。

我々が調査を進めている島根県雲南市では、毎年、多数のアカショウビンが渡来して繁殖している。5 年前から実施している標識調査において年平均 5 羽に環境省の足環を装着して放鳥。さらに、そのうちの 2 羽が再捕獲できており、1 羽は 4 年連続渡来を確認している。

このような状況の中、近年、小型の鳥類にも装着できるジオロケーター（照度記録装置）が開発され、ブッポウソウやマミジロなどへの装着で、その実用性が証明されるようになった。そこで、このたびアカショウビンにジオロケーター装着して、その渡りルートや詳細な越冬地を解明するための調査をスタートさせた。

平成 24 年度には、(公財)山階鳥類研究所と共同で 5 羽のアカショウビンにジオロケーターを装着。来年度以降の再捕獲を目指しているが、確率を高めるためには装着個体数を増やす必要がある。

(右図はジオロケーターを装着した
亜種アカショウビン)



ジオロケーターによる調査は、装着個体の再捕獲によって機器を回収し、はじめて成果を出せるものである。そのためには継続した調査が不可欠である。

調査地：

島根県雲南市

調査方法：

調査地内に棲息する個体をかすみ網を用いて捕獲し、ジオロケーターと標識（環境省リングとカラーリング1個）を装着して放鳥する。

装着個体を翌年以降に再捕獲してジオロケーターを回収、データを解析する。

捕獲と装着は、共同調査者であるベテランバンダー（鳥取、京都、広島などのバンダー）が実施する。

ジオロケーターはレッグループハーネス法で背面に装着。レッグループハーネス法は、サイズと体型に近い鳥種に対して国内外で使用実績があり鳥への安全が確認されている。

調査時期：

毎年5月上旬から8月下旬

得られる成果：

- ・亜種アカショウビンの越冬地と渡りルートの解明
- ・調査継続によるアカショウビンの寿命解明
- ・アカショウビンの生活パターンの解明など

申請理由：

調査には、ある程度の個体数と年月が必要となる。

装着個体数を増やすためのジオロケーター購入、調査基地の借用にかかる経費など多くのご支援をいただくことによって、継続した調査の実施が可能となる。

共同調査者：

山階鳥類研究所 仲村 昇

日本鳥類標識協会 市橋 直規、中森 純也、鳴海 末信、小林 徹 ほか

以上